

A . 国際協力・交流事業

A- . 開発協力部門

1 . 井戸・供給事業

完成井戸建設状況 (2009年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2008年度完成	累積
インド	5	430
インドネシア	-	34
カンボジア	34	218
スリランカ	10	67
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	6	84
バングラデシュ	11	119
パキスタン	-	8
フィリピン	4	293
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	4	9
ラオス	-	11
合計	74	1,363

インド BSVIA タミルナードゥ州 1基
 露天式井戸 1基
 ナガパティナム地区ベリアクッタカイ村

インド RUDYA マハラシュトラ州 2基
 露天式井戸 2基
 ガッチロリ地区ダノーラ区ポリ村
 ガッチロリ地区モーシカム地区モハトラ村

インド SSH タミルナードゥ州 2基
 ポンプ式井戸 2基
 ナマカル地区カラトゥパッティ村
 ナマカル地区ペリヤパッティ村

カンボジア KAFS 全域 34基
 露天式/ポンプ式井戸 34基

タケオ州トレアン郡ロネアム地区ブレイ・パ・アブ村
 タケオ州トレアン郡ロネアム地区ブレイパエイ村
 タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区トラバイン・ベン村(2基)
 タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区クランカンダール村
 タケオ州トレアン郡ブランベイマム地区ドムナックレアチア村(2基)
 タケオ州トレアン郡サンロン地区ポンレイ村(2基)
 タケオ州トレアン郡サンロン地区チュレイ村(2基)
 タケオ州トレアン郡ドーンケオ郡ソーチャン村(2基)
 タケオ州トレアン郡ドーンケオ郡トラバインサラ村
 タケオ州トレアン郡ドーンケオ郡ロカクラウ地区トム村(2基)
 タケオ州トレアン郡ロネアム地区トメイ村(2基)
 タケオ州トレアン郡ロネアム地区クラウントベア村
 タケオ州トレアン郡プレイスルック地区ネアル村
 タケオ州トレアン郡プレイスルック地区トラバンベン村
 タケオ州トレアン郡サンロン地区チェイ村
 タケオ州トレアン郡サンロン地区タブラス村(2基)
 タケオ州トレアン郡クバブ地区ドーンプー村
 タケオ州トレアン郡アंकヌール地区プレイサンデク村
 タケオ州トレアン郡クバブ地区スレイセト村
 タケオ州トレアン郡クバブ地区フーンコール村
 コンボントム州スタウン郡ブラライ地区タトレアル村(4基)
 コンボントム州スタウン郡ブラライ地区スレタメン村(2基)

スリランカ Sarvodaya スリランカ全域 10基
 露天式井戸 10基

キャンディー県カラガラ村
 キャンディー県マダデニヤ村
 キャンディー県カハンピリヤ村
 キャンディー県ボラウナ村
 バダビヤ県ワハルカダ DI 村
 マンナール県パリムナイ村
 マンナール県シャバンカディカドゥ村
 マンナール県モッタカダイ村
 モナラガラ県ディックヤヤ村
 ワウニア県パラティプラム村

ネパール GS ネパール 全域 6基
 露天井戸 5基

ノールバラシ郡ビトゥリ村
 シンドゥバルチョーク郡シバガット村
 バクタプール郡スダール村(3基)

A. 国際協力・交流事業

給水タンクおよびパイプライン バクタプール郡スダール村	1基
--------------------------------	----

バングラデシュ RWF バングラデシュ全域	3基
ポンプ式井戸	3基

チャバイナワブガンジ県ミルキー村
ラジシャヒ県ゴピンドプール村
チャバイナワブガンジ県ブットクール村

バングラデシュ BDP バングラデシュ全域	8基
ポンプ式井戸	8基

ボリシャル県アンブツラ村
ボリシャル県カティラ村
ボリシャル県東パイサ村
ボリシャル県バカイ村
ボリシャル県サトシムリア村
ボリシャル県バグダ村
ボリシャル県マヒララ村
ボリシャル県ランデベルパー村

フィリピン KALIFI ヌエバエシ八州	3基
ポンプ式井戸	3基

カピアオ町バゴンシラン村ブロック1
カピアオ町バゴンシラン村ブロック2
カピアオ町バゴンシラン村ブロック6

フィリピン AFS-Virac, Catanduanes カタンドゥアネス州	1基
簡易水道付きポンプ式井戸	1基

リクティン村

ミャンマー MAFS ミャンマー全域	4基
露天式井戸	4基

サガイン県ドンワサン村
サガイン県モロノム村
サガイン県タナクウィン村
サガイン県トンキョウ村

【建設中】	35基
--------------	------------

インド	3基
カンボジア	6基
スリランカ	4基
ネパール	4基
パキスタン	1基
バングラデシュ	2基
フィリピン	5基
ミャンマー	4基
ラオス	6基

2. 水源の森・植林事業

地球規模で温暖化が進む今日、植林事業は温暖化防止、地球環境保全に重要な役割を果たしている。また、植林は地下の保水力を高めるという効果があり、私たちが生きていく上で必要な水の確保にも繋がる事業である。これまで本会は「井戸を贈る運動」として水源を求めて安全な飲料水を贈ってきたが、2002年度より、水不足の根本的な解決策として、また、地球環境保全運動の一環として、「水源の森をつくろう」をテーマに、毎年苗木を植え、「JAFS水源の森計画」を行なっている。

併せて、防災を目的とした植林や、コミュニティーフォレストとして荒地を住民の手で緑化し、地域に役立つ森づくりを目的とした植林を実施している。

(2009年3月現在)

国名	2008年度植林	累積
インド	400	712,205
インドネシア		193,960
カンボジア		6,000
スリランカ		400
タイ		20,500
中国	82,500	806,525
ネパール	2,300	280,677
パキスタン		4,560
フィリピン	4,400	76,900
バングラデシュ	20,000	26,500
合計	109,600	2,128,227

(1) JAFS 水源の森事業

パンダン水源の森プロジェクト AFS-Pandan	1,375本
----------------------------------	---------------

【フィリピン、アンティーク州】

2003年度より開始した水源の森保全プロジェクト。
カシュー、ジャックフルーツ、ランブータン、アティス、ランソネス、アボガド等の果樹計 1,375本の植林を行なった。

また、京都暁星高校の協力で高校生対象のワークキャンプを実施し、765本の果樹の苗木を同様に植えることができた。

2008年度は花が咲く時期に台風に見舞われ、多くの木々が実をつけることはなかったが、これまで植林した木々の成長は確実に見られており、今後収入源となる果実が期待される。

(パナイ島パンダン町)

パロンバナネス島水源の森プロジェクト AFS-Virac, Catanduanes	3,025本
--	---------------

A. 国際協力・交流事業

【フィリピン、カタンドゥアネス州】

漁村の島、パロンバナネス島。島の 7 割は、焼畑、森林伐採が進み、現在では禿山が広がっている。その影響は表土の侵食、洪水の増加、サンゴ礁の破壊、水不足、海上汚染などとして出てきている。

昨年に引き続き、植林プロジェクト 3 年目を迎える。天然環境資源省より専門家を招き、住民参加型のセミナーを 2 度開催した。アグロフォレストリーと植林、森林保全と規制、苗床・苗木の作り方についてグループディスカッションなどを交えて行った。島人のべ 400 名以上の参加が見られた。地元住民の意識向上と協力体制の高まりが感じられた。アカシア 1500 本、ナラ 500 本、ブラックベリー（イゴット）500 本、ファイアーツリー 500 本、マウカ 15 本、オゴブ 10 本の計 3,025 本。

過去 2 年間に植えた苗木の保護にも力を入れて行っていく。
(カラムラン町トイトイ村パロンバナネス島)

甘肅省鎮原県の農村地域の女性たちによる植林

モデル事業（CHAFS）82,500 本

【中国、甘肅省鎮原県】

中国随所で労働力が都市部へ流出していく現象が起きている中、村に残った労働力である女性たちの意識向上を目指す「社会林業」に焦点を合わせ、女性による地域の再開発モデルを形成することを目的としている。

女性による相互扶助グループが形成され、植樹の維持管理及び、トレーニングなどが実施された。地拵え、植栽、灌水から保育、その後の維持管理に至るまで、当時行を円滑に展開していった。

造林面積は 50ha であり、油松、コノテガシワ、杏などを計 82,500 本行った。女性相互扶助グループと専門化との即時連絡が可能になり、専門家の技術指導がスムーズに行われるようになった。適切な植樹及び維持管理が行われ、木々も着実に成長している。

今年度も激しい干ばつが続く、春季に灌水することが困難を極めた。水を近辺の畑にまで直接運び、灌水をし続けるなどの工夫を重ねるなど、植栽樹の初期養育に大変苦勞を行った。施設設備の作業として 2,500m の道路工事を完成し、貯水池、吸水ポンプを設置して水源を確保した。

初期段階での灌水の困難にもかかわらず、50ha の土地に植樹された植樹の生存率は、油松、コノテガシワ、杏、針エンジュ（合計 82,500 本）の活着率が平均約 86% である。この結果は、専門家の熱心な働きかけと、女性の相互扶助グループによる維持管理体制と、村の人たちの参加の成果だと言える。

油松、コノテガシワ、杏、針エンジュ、クルミ 計 82,500 本
平成 19 年度日中民間緑化協力委員会資金を受ける。
(甘肅省鎮原県)

(2) JAFS 植林事業

植林 RUDYA 400 本

【インド、マハラシュトラ州ガッチロリ地区】

2008 年 10 月 10 日の「国際水と緑の日」を記念に、ガッチロリ地

区内のグリーンスカウトメンバー、日印友好ユースサミット参加メンバー及び、日印友好学園グラミン小学校の生徒と共に、グラミン小学校内に植林が実施された。

コミュニティ フォレスト GS-Nepal 600 本

【ネパール、ナラヤン県】

「朝日読者の森」として森林破壊が著しいネパールにて 2001 年より森作り事業を実施。5 年計画の終了後、農村地域に貢献できるセンターづくりと地域の森林面積の復活を目指して JAFS ランドと称したエリアにアグロフォレストリー植林を実施。ユーカリ種やニームなど 10 数種類の木とパパイヤやレモン種などの果実を植林。

(ナラヤン県チトワン郡ラトナナガル市 5 地区)

コミュニティ フォレスト GS-Nepal 50 本

【ネパール、ルンビニ県】

昨年度植林を行った 4 校の学校やこれまで実施しているコミュニティフォレストづくりの植林活動のフォローアップ植林を実施。子ども達が植林後管理を行っているが、数本は根付かないこともあり、その植え替えなどを実施した。

環境を守るには、村の住民たちが自分たちの手で森を守る考えがあるかどうかに関わってくる。地域がコミュニティフォレストを実施していることにより、植林の定植に大きく寄与している。

(ノールパラシ郡ピトゥリ村)

コミュニティ フォレスト GS-Nepal 1,000 本

【ネパール、バグマティ県】

バイオガスプラント設置と同時に子ども達及び地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を初めて実施。村自体ではコミュニティフォレスト以前より実施しているが、学校の周辺の植林がなされておらず、地すべりを起こす状態になっていた。今年度はワークキャンプを実施し、参加者共に生徒たちの参加を基本条件として実施、ネパールでは梅干のように慕われ食卓に欠かせないロブシーの木を始め薬草として用いられるサツラ、クリロ、水源涵養樹木のチライトを計 1,000 本植林をおこなった。

(バクタプール地区スダル村 / カブレ郡トクチャヤ村)

コミュニティ フォレスト GS-Nepal 650 本

【ネパール、バグマティ県】

地域住民の手による植林活動、コミュニティ・フォレストづくりを 1996 年より実施しているが、住民の環境意識の向上が高まった中、青少年の環境意識を高めるため、若年層が参加するコミュニティフォレストづくりを実施。今年度は 7 月にロブシー、ドゥッピー、ウッテ - ス、サツラ、リタ、コイラロ等の 650 本の水源涵養木、果樹、農業用木を植林した。

(カトマンズ地区チュニケル村)

育苗センター GS Nepal

【ネパール、ナラヤン県】

ネパールでの植林活動を広げる為に、3,000 本を育苗。各植林

A. 国際協力・交流事業

プロジェクト地の苗木としても利用。農業と密接な生活をしているネパールの農民が、少ない土地で効果的な収穫を得られるために、モデル農園づくりを実施している。現地の農民対象のトレーニング実施などに向けて、調整中。この支援は、朝日新聞社 朝日会の継続支援により実施。

(チトワン郡ラトナナガル市 5 地区)

植林 BDP **20,000 本**
【バングラデシュ】

サイクロン「シドル」の災害復興支援の収入改善事業の一環として、2,500 世帯に果樹の木 8 本を配布し、被災者の手により植林された。詳細は災害復興活動支援事業を参照。

(ポリシャル県 22 カ村)

3. 教育支援事業

(1) アジア里親の会

子どもたちにとって「学校で学ぶ」ことは、子どもとしての権利であるが、時に子どもたちは生活するために学ぶことよりも働くことを選ばなくてはならない。

アジアの国々では、いまだ多くの未就学児や、途中退学の子どもが大勢いる。その原因は主に不十分な教育制度、加えて親の理解不足や家庭の経済事情によるものである。「教育」は人が生きていくための種となる。「アジア里親の会」では、1 人でも多くの子どもが学校で教育を受けることが出来るように、学費や教育施設の運営を支援。里親には対象の教育施設に通う子ども(里子)を紹介し、手紙などによる相互交流をおこなった。2008 年度は 350 人の里子を支援。

アジア里親の会 里親決定状況 (2009 年 3 月現在)

国名	2008 年度里子数	里子累計数
インド	102	215
バングラデシュ	74	145
ネパール	98	132
カンボジア	68	89
フィリピン	8	8
合計	350	589

日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール BSVIA

【インド、カルナータカ州】

日印友好学園コスモニケタンの教職員給料、制服、教材費などの運営費を支援。 < 45 名 >

JAFS 教育支援事業 SSH

【インド、タミルナードゥ州】

ディンディガル地方・ナマカル地方で学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がエイズに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援。

< ディンディガル地方 34 名・ナマカル地域 18 名 >

JAFS 教育支援事業 RUDYA

【インド、マハラシュトラ州】

マハラシュトラ州ガッチロリ県のパダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちを中心としてパダトラ小学校の寮生、生徒たちが就学できるための支援。 < 5 名 >

バンガバンドゥ小学校 AFS-Dhaka

【バングラデシュ、ダッカ】

スラム街や低所得者用住居に住む子どもたちが初等教育を受けられるよう、教職員給料などの学校運営費及び、学費や制服、学用品などの支援。 < 28 名 >

サンフラワープロジェクト BDP

【バングラデシュ、ダッカ・ミルプール地域、ガジプール地域】

ダッカ・ミルプール地域及び農村部のガジプールの子どもたちが個人負担費が多くなるために小学校以上の就学率が下がっている。それらの子どもが中等教育を受けられるよう支援。 < 46 名 >

ビトゥリ村小学校支援 GS-Nepal

【ネパール、ノールパラシ郡ビトゥリ村】

ビトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラズラトナ小学校、ビトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援と学校運営支援。 < 21 名 >

ヤシャシュビ学園

【ネパール、カトマンズ郡シタバイラ村】

ヤシャシュビ学園近郊のシタバイラ地域及びその周辺に住む、学校に通っていない子どもたちに就学の機会を与え、その生徒の学費を支援。 < 48 名 >

ナウリンセカンダリースクール GS-Nepal

【ネパール、カトマンズ郡チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない子どもへの学費支援と学校運営支援。 < 29 名 >

JAFS 教育支援事業 KAFS

【カンボジア、タケオ州、コンボンチュナン州、カンダール州】

コンボンチュナン州とタケオ州そしてプノンペン近郊のカンダール州にある小学校の運営支援、及び、子どもたちへの教材支援。里子を対象とした英語の課外授業なども行っている。 < 68 名 >

JAFS 教育支援事業 ASI

【フィリピン、カビテ州ダスマリネス町パリバラン】

A. 国際協力・交流事業

スラム街でストリートチルドレンとして生活していた子どもたちが小学校での教育を受けることができるように学費や学用品などを支援。〈8名〉

(2) 教育費支援

ストリートチルドレン支援 ASI

【フィリピン、マニラ市、カピテ州】

2004年度より支援を行ってきたマニラ市内の国鉄の線路沿いに形成されたスラム街、「フィリピン・ナショナル・レイルウェイ・コンパウンド(PNR Compound)」は、フィリピン政府の政策により、2007年の全国総選挙に伴い一斉に強制撤去された。南に約60km、車で2時間半のカピテ州ダスマリネス町へ移転を余技なくされた。都心部から生活の場が遠く離れ、多くの人々は失職し、子どもたちは学業の場を失い、一部は再びマニラ市内に戻ってくるようになった。

アジア里親の会のプロジェクトからは子どもたちの教育支援を、その他、生活改善プログラムとして、家庭菜園を試みている。

マニラとカバヤオ町の2箇所で、家族、子どもたちが生活自立できるように家族、子どもたちを新たな形で支援していく。

(サンアンドレス・ブキッド、ダスマリネス町パリパン)

ストリートチルドレンのための子ども村 建設事業

【インド、ハリアナ州】

現在、用地を購入し、子ども村建設に向けて事業が進んでいる。「子ども村」の最初の在インド日本領事館による草の根無償の支援により、最初の建物である教育訓練センターが建設され、2008年12月に完成式典が行われた。教育訓練センターの目的は、ストリートチルドレンの教育向上の他、こども村近辺のレンガ工場で働く幼き子どもたちの教育の場としても活用される。

(ジェソール地区ジャジャール村)

日印友好学園グラミン小学校 RUDYA

【インド、マハラシュトラ州】

貧しい少数部族民の子ども達が適切な教育を受けることが出来るように2001年に完成した日印友好学園グラミン小学校。現在、小学生1～5年の65名がこの学校に通う。2008年度は、遠方の村から子どもたち20名を受け入れることとなった。その理由は、反政府活動によりその村の公立学校が封鎖され、教育を継続するための受け入れ先がなかったこと、そして、学校に通わせようとすると反政府運動家から命を狙われる恐れがあるからである。現在、学校の一部をホステルにし、その20名はそこで生活を行っている。また、食糧を補うために、菜園を始めた。

本年度は、学校に通う生徒65名の制服及び教科書、学用品の供給、ホステルにかかる諸経費、及び教職員7名の給料を支援。

(ガッチロリ地区バダ・トラ村、ラバン・トラ村)

JAFS 教育支援事業 ラリット福祉センター

【ネパール、バグマティ県】

孤児や母子家庭の子どもを対象に教育の機会を提供している

社会福祉団体の学校。教師2名の給料を支援。自力で就学することが困難な子どもたちが、学ぶ機会を得られるように支援を行った。

(ラリットプル地区)

図書教材供給事業 KAFS

【カンボジア、コンボンスプー州】

2007年度に建設された図書館の書物の強化を図るために、新たに、クメール語/英語辞典、英語の絵本などの教材を購入した。

(サムロントン郡サムロントン地区ロンコ村)

(3) 教育施設・設備支援

学校建設状況 (2009年3月現在)

国名	2008年度建設数	校舎棟累計数
インド	1	20
インドネシア		2
カンボジア	1	39
タイ		10
中国		1
ネパール	1	17
パキスタン		2
フィリピン		7
ベトナム		2
合計	3	100

学校数及び研修施設、コミュニティホール数を含む

コスモニケタン学園教員宿舎建設事業 BSVIA 1棟

【インド、カルナータカ州】

カルナータカ州ビジャプール地区の中でも教育の質の高さにおいて高い評価を受けているコスモニケタン学園。殆どの教員たちは遠方から通っているために、授業終了後、直ちに帰宅せざるを得なくなり、学園の教育になかなか専念することが出来ない。教育水準を維持し、教員たちに安定した生活をもたらすために、教員宿舎1棟(4軒分)を建設した。学園の教育水準が維持され、より優秀な人材を輩出することが期待される。

学校校舎建設事業 KAFS 1棟

【カンボジア、タケオ州】

タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トム村内のトム小学校に一棟建設された。ロカクラウ地区の5カ村の子どもたちがこの学校に通っているが、既存の校舎には既に544名の子どもたちがおり、新たに子どもたちを受け入れられない状況下にあった。学校建設により新たに子どもたち314名が新校舎で学ぶことができるようになった。

(ドーンケオ郡ロカクラウ地区トム村)

A. 国際協力・交流事業

小学校図書室校舎建設事業 GS-Nepal 1棟

【ネパール、ルンビニ県】

スリーサンティ小学校は、16年前に小学校校舎の建設を実施し、子ども達の就学率の向上、基礎学習向上に努めてきたが、図書室など生徒たちが教科書以外で学ぶ機会がない状況であった。けれども、村及び学校の資金だけでは建設を行うことは難しく、本会と共同で建設を実施することとなった。図書室棟の建設は生徒、先生そして村人たちの大きな希望で、それが叶ったことにより、子どもたちは多くの知識をさまざまな角度より学ぶことができるようになることが期待できる。

(ノールパラシ郡ピトゥリ村スリーサンティ小学校)

小学校フェンス設置事業 GS-Nepal

【ネパール、バグマティ県】

ネパールの首都カトマンズは経済的には旅行者からの外貨収入や外国資本の恩恵により発展している。一方、その周辺わずか10Km四方の村々では半自給自足により生計をたてており、生活の格差が激しい。トゥクチャ村もそのような村の一つである。

この村で昨年の学校建設がきっかけとなり、村人のつながりが強くなり、加えて意識の向上につながった。学校建設の仕上げとして、また子ども達が健全に学校生活をおくることを目指し学校の塀、階段づくりを実施。材料となる竹は殆ど村人よりの寄贈から賄うことができた。

(カブレ郡トゥクチャ村マハンカル小学校)

4. 保健衛生支援事業

(1)簡易トイレプロジェクト

トイレ建設状況 (2009年3月現在)

国名	2008年度完成	累積
インド	0	1194
カンボジア	4	4
バングラデシュ	0	271
パキスタン	0	6
ネパール	0	25
タイ	0	9
合計	4	1509

タレアル小学校トイレ建設支援事業 KAFS

【カンボジア、コンポントム州】

2006年度に建設された小学校の環境整備事業の一環として、学校に通う子どもたちの衛生改善と衛生に対する意識の向上に取り組むために、小学校にトイレ棟(4基)を建設した。現在、校長先生を中心に、子どもたちの衛生改善指導を強化している。

(ブラライ地区タレアル村)

(2)医療施設・セミナー

チョータラ村母子保健向上支援事業 GS-Nepal

チョータラ村の母子保健事情を支えるチョータラ国立病院産婦人科病棟は、マオイストによる本館爆破の影響により多くの亀裂が入り、雨漏りをするなど病院の機能を果たすことが難しくなった。爆破された本館の建て直し中は、その機能が全て産婦人科病に移行しているため一日も早い修復が求められている。そのため修復を現在実施中。

スクテ診療所 運営支援事業 GS-Nepal

【ネパール、バグマティ県】(運営費支援)

医療機関の無かったスクテ村に1995年に本会の支援により建設されたスクテ診療所。反政府グループによる占領が原因でその機能を失っていた事で、2004年の再開後も自主運営することができなくなった。そのため、診療所の働きに従事している看護師2名の給与を支援。今後1年～2年で自主運営できることを目指す。

(シンドゥパルチョーク郡スクテ村)

母子保健向上支援事業 TBA(伝統的お産介助者)支援

GS-Nepal

【ネパール、バグマティ県】

国土の80%が山間地であるネパールでは、医療機関が近隣に無いために病院を利用することが少なく、お産の際にはTBAと呼ばれるお産介助者がサポートする自宅分娩が大変多い。しかし、近年TBAに対しての政府支援が途切れ、活動継続が実施しにくくなった。彼女たちの働きは農村でお産をする女性たちにとって必要な存在で、リスクの高いお産を安全なお産に導く役目を担っている。今年度は、お産の際の保健キットと衛生布巾、消毒タオルの支援によるフォローアップを行い、農村地域のお産と母子保健の向上を行った。(シンドゥパルチョーク郡チョータラ村、ダーディン郡ダーディンベシ)

小学校衛生教育支援事業 GS-Nepal

【ネパール、ルンビニ県】

「手を洗う」事が、水で手をぬらすことではなく、きれいに汚れを落とし、清潔な手にすることであるということが、全体に周知され、各小学校での目標の中に“清潔な手で学校に登校しよう”の目標を子ども達が立て、爪切りとマスクの配布支援を行い、こども達の更なる意識向上のために指導を行った。

(ノールパラシ郡ピトゥリ村3校の小学校)

栄養改善支援事業 小学校給食 GS-Nepal

【ネパール、ルンビニ県】

こども達の健全な育成を目指す中、ネパールの農村では経済状況が不安定なため、日常の食事により摂取できる栄養素に偏りがある。特に成長期のこどもたちにとって、必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分な状態がある。栄養補助となり、健康状態や成長が改善されることを目的として、ピトゥリ村スリーサン

A. 国際協力・交流事業

ティ小学校の約 200 名の生徒を対象に、毎週木曜日に卵と牛乳の給食を継続的に支援を実施（14 年間）。こどもたちの健康状況は改善されつつあり、栄養知識の向上してきている。継続支援により、新入生の子ども達も健全な学生生活を送ることが出来、こども達の自主性・協調性が高まってきている。

（ノールパラシ郡ピトゥリ村）

5. 生活自立支援事業

(1) 生活改善

石窯建設事業 BSVIA

【インド、カルナータカ州】

南インドカルナータカ州ビジャプール地区の農村地域、経済的に困難な家庭の女性達に、生活向上のために収入に繋がる事業として、石窯を建設した。ビジャプール市内近くに飛行場の建設も予定されており、市場は今後広がっていくと見られる。

また、ベジタリアンの地域に新しく健康的な食べ物の作り方を女性が学ぶ事は、収入が増える事と同時に、家庭の健康面も改善されていくと考えられる。この事業は綾部の田中仲江氏を中心としたグループによって建設された。

「石窯の作り方をよく学んで欲しい。村には仕事がない人が多い。その人たちに仕事を与える事になる」全校生徒の前で言ったコスモニケタンの学生の言葉が印象的であった。

（ビジャプール地区ブルナプール村）

(2) 女性の自立支援

婦人生活自立銀行 BSVIA

【インド、カルナータカ州】

農村部の低所得の女性を対象に、裁縫などの家内産業、小店開業、養鶏、家畜の購入資金などを融資。アイナプール村、ウクリ村、チャッタラキ村、カドレワド村、の必要な世帯に（主には村長からの信用貸し）1,000～2,000 ルピーを融資している。現在、このプログラムは村長を中心として、自活運営されており、BSVIA が設定した年利 4%、2 年まで融資可能という方針をとりながら、継続して行われている。

2008 年度は上記の村 30 世帯に対し支給を行った。

（ビジャプール地区）

(3) 少額貸付

ビジャプール農民組合 BSVIA

【インド、カルナータカ州】

早魃に度々見舞われるこの地区では、5 エーカー以下の小規模農家が自給していくのも困難である。その為、1997 年度に農民組合を設立し、以来、組合員に種や肥料の購入費の貸付けを行っている。マダヴァビ村、アイナプール村、カドレワド村、ブルナプール村、チッカヴァヌール村の必要な世帯に対し 1,000～2,000 ルピーを融資。期間は 1 年間、年利 4% である。このプログラムもビジャプ

ール農業組合と上記の村の村長を中心として信用貸しが行われており、村と組合が BSVIA が設定したシステムを採用し、自活運営されている。

2008 年度は、14 世帯を対象とした。

（ビジャプール地区）

(4) HIV/AIDS 支援

HIV/AIDS 研修施設建設事業 SSH

【インド、タミルナードゥ州】

ナマカル地区はインドの中でも、都心部（ムンバイ・デリー・コルカタなど）を除き、HIV/AIDS の感染率が最も高い地域である。運搬業などの移動労働者が多い地域であり、都心部で HIV/AIDS に感染し、村に帰り、感染を広めていることが大きな原因となっている。

現地調査の結果、これらの感染に歯止めをかけるには、適切な施設で、教育・研修を広めることが最も重要であるとわかった。そのため、HIV/AIDS に売春などで直接感染した子どもたち、両親が感染し、学校に行かずに、働いている子どもたち、そしてその両親たちのために HIV/AIDS 研修施設を建設した。2009 年 2 月に完成式典を行い、多くの人々から歓迎を受けた。この支援は在チェンナイ日本領事館の草の根無償支援資金を受けて実施された。

（ナマカル地区シンリパティ村）

HIV/AIDS 孤児を抱える親族の支援

KAFS

カンボジアの農村において、出稼ぎ労働者が感染源となり、両親が感染するなど、HIV/AIDS が急速に広がっている。中には両親を失くし、親族の家に居候する子どもたちが多く、親族も生活が厳しく、食糧確保が困難になってきている。本会はこのような子どもたちや親族のために、食料配布及び教育継続のための教材（エンピツ類）などの配布を行った。

（タケオ州トリアン郡ロネアム地区 5 カ村）

(5) バイオガスプラント

バイオガスプラント設置及び普及事業 GS Nepal

256 基

【ネパール ルンピニ県・バグマティ県】

人口増加と同時に森林破壊減少が進み、その歯止めとしての代替燃料の確保が急務となってきている。資源がほとんどないネパールでは簡単に他の資源を確保することが出来ないため、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が確実な燃料確保につながることを期待し、推進している。農村に住む人々の生活改善（薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のスラリーは農業に欠かせない堆肥となる）に大きく寄与している。

また、講習会を実施することで、住民がバイオガスプラント設置普及に対する理解と環境問題への関心に繋がった。

効果として、1 基の設置につき、薪の年間使用量と 1 世帯当たり 4,000Kg の使用量の内 70～90% 削減することができる。このことは、国土の 30% 台にまでに減少（以前は 70%）した森林面積の回復にも繋がる。同時にトイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも

A. 国際協力・交流事業

繋がっている。効果は広がり、設置希望が年々増大している。

- ・ノールパラシ郡ピトゥリ村 54 基
- ・ダーディン郡 102 基
- ・バクタプール郡スダル村 90 基
- ・カブレ郡トゥクチャ村 10 基

* 内、254 基は平成 19 年度下期国際ボランティア貯金に係る寄附金の配分を受ける。

【2008 年度 計 256 基設置 累計 530 基設置】

バイオガスプラント設置及び普及事業 CHAFS 5 基

【中国】

甘肅省鎮原県は、黄土高原の一部に位置し、長年の経済開発に伴う森林伐採により、森林資源が減少している。しかしながら、住民の生活は貧しく、日々の生活の燃料資源を森林に依存している。このような地域において、代替燃料の普及と住民の生活改善を目的として、バイオガスプラント 5 基を設置し、今後も普及に努める予定である。

(甘肅省鎮原県)

生活自立改善事業 RUDYA

【マハラシュトラ州ガッチロリ郡】

インドの中でも少数民族が大多数を占めるガッチロリ地区において少数民族の生活改善の自立に向けて様々な取り組みを行っている。その一環として実施されているのが、相互扶助グループ(Self Help Group)の普及と農村協同組合(Cooperative Society)。地域の人々の生活自立を目的のため、資本金や貯蓄、政府補助金(SHG の場合)を貸し出し、小規模産業を始めるきっかけ作りを行っている。また、貯蓄研修ワークショップ、法律に関するワークショップ、環境保全に関するワークショップ、有機農業普及のためのワークショップなどを SHG グループの人々を中心にして実施し、地域の人たちの手で自身の地域を帰れるように働きかけている。

(チャモシー地区ラクハマプール・ポリ村)

6. サイクル・エイド事業

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間 50 万台に上り、うち約半数は引き取り手が無いために各市町村で処分され、大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることを、この事業の目的とする。また放置自転車を修理、再生し、リデュース・リユース・リサイクルの好循環

によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを、目指す。

平成 17 年度より、社団法人アジア協会アジア友の会が事務局となり事業を実施。大阪府などがメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1)自転車の寄贈

自転車の提供 計 1,550 台

堺市 320 台、八尾市 280 台、寝屋川市 240 台、泉佐野市 200 台、阪南市 150 台、泉大津市 130 台、高石市 120 台、松原市 110 台

自転車の寄贈

フィリピン、タイの 2 ヶ国に 1,550 台の自転車が寄贈。事業開始以来、アジア、アフリカの 9 ヶ国に 23,468 台の自転車を贈ることができた。

フィリピン 880 台

9 月 ビコール州カタンドゥアネス島サン・アンドレス町 330 台

3 月 ビコール州カタンドゥアネス島サン・アンドレス町 550 台

サン・アンドレス町の学校や生徒、行政職員、消防署や職業訓練所、保健婦、教会関係者、村長、非政府組織、市民社会組織に寄贈された。交通手段および通信手段として役立てられ、彼らの機動力を高めている。また、近隣の町にも配布され、より多くの対象者が有効的に活用している。

これまで学校までの交通費がかかるため、兄弟の中で曜日毎に交代でしか通えなかった子どもたちが毎日通学可能となり、教育への道が開かれた。また、病人や怪我が村で出た時に、保健婦が自転車を使い、簡易手当に駆けつけて緊急対応ができるようになった。自転車は多くの人々の学校や会社へ行く時に使われる燃料を節約して環境に優しく、また健康的な生活スタイルとして受け入れられている。

2008 年 12 月 17 日 自転車贈呈式典

タイ 670 台

10 月 バンコク市 50 台、チェンマイ県 120 台、ナン県 250 台

1 月 ナン県 250 台

タイに贈られた 670 台はバンコク市、チェンマイ県、ナン県の子どもたちを中心に、農民や警察、地方行政職員等に寄贈され、活用されている。タイ北部の村々にある学校は、歩いて通うには遠過ぎる場所に住んでいる生徒が数多い。例えば 10km 程離れていると、片道 2 時間以上かかることになる。そんな子ども達が自転車を使うことにより、経済的で、そして安全に毎日の通学ができるようになる。また、農村地帯では水の運搬など日々の生活に利用され、貧しい家庭の重要な移動手段となっている。さらに、地域の環境保全も兼ねた観光事業の促進や地球温暖化のキャンペーンにも活用され、新たな社会貢献の分野で見直されている。

他には、バンチャイサタン学校の子どもの通学やナン県ウィアンサ、ムアン、プア郡の 10 ヶ村に住む子どもの通学、農民の運搬手段や村の保健婦の移動手段として贈呈された。

自転車は学校や贈られた各グループの村人達で管理され、利用者が卒業した後でも引き続き利用されている。

A. 国際協力・交流事業

サイクル・エイド事業は現地の新聞やラジオ等を通じて広く紹介され、バンコクの港からタイ北部まで自転車を輸送する協力者が徐々に増えてきている。協力者が集まり、タイのサイクル・エイド委員会が組織され、自転車が効率的かつ効果的に役立てられるように事業が進められている。

2009年2月21日 自転車贈呈式典

(2) 事業推進のための広報活動の実施

事業 PR 用パンフレット、のぼり、横断幕の作成・配布
パンフレットを 40,000 部作成、広く一般に広報活動を行った。イベント等でのぼりや横断幕を活用し、事業の紹介を行った。

(社)アジア協会アジア友の会 HP による情報発信

URL: <http://www.jafs.or.jp/cycleaid/index.html>

JAFS 機関紙「アジアネット 98、99、101 号」に掲載、大阪府アジア交流課「アジア交流情報メールマガジン」に掲載、JR 東日本山手線社内の「トレインチャンネル」での放映、チャンネルパナソニック(Panasonic のブロードバンド放送)の「エコアイデアワールド」での掲載、各種イベントとの連携、企業への協賛金依頼
平成 20 年度は関西電力株式会社、大阪ガス株式会社から協賛金をいただき、海上輸送費として活用。

また、大阪府自転車軽自動車商業協同組合からは修理キットの無償提供、港までの運搬の協力を受ける。

さらに下記イベントにおいてサイクル・エイド事業の活動紹介を行い、募金活動などを実施。

堺大魚夜市

日程:2008年7月31日(木)

場所:大浜公園

主催:堺大魚夜市実行委員会

後援:堺市ほか

来場者数:約 210,000 人

泉大津フェニックス野外コンサート

日程:2008年8月9日(土)、30日(土)、31日(日)、9月7日(日)

場所:泉大津フェニックス

主催:グリーンベイ OSAKA

来場者数:合計 約 65,000 人

サイクル・エイド募金箱の設置

再生自転車の海外輸送費を確保するため、大阪府庁、(財)吹田市国際交流協会、大阪府パスポートセンターに募金箱を設置し、府民に寄付の呼びかけをおこなった。

(大阪府庁)

日程:2008年8月21日～9月30日

場所:大阪府庁本館1階正面玄関、別館1階玄関

((財)吹田市国際交流協会(SIFA))

日程:2008年9月初旬～11月中旬

場所:(財)吹田市国際交流協会事務局

(大阪府パスポートセンター)

日程:2008年10月3日～12月25日

場所:大阪府パスポートセンター本所

寝屋川多文化フェスタ

日程:2009年3月7日(土)10時～16時

場所:寝屋川市立市民会館

主催:ねやがわ発!!みんなおいでよ多文化フェスタ実行委員会

後援:寝屋川市、寝屋川市教育委員会、ほか

来場者数:約 1,000 人

(3) 平成 20 年度自転車出発式

日程:2008年8月21日(水)12時～12時15分

場所:大阪府庁正面玄関

内容:出発式では、サイクル・エイド支援会議委員長である橋下大阪府知事から、協力市町村や団体への謝辞、激励と募金を呼びかけた。また、寄贈先であるフィリピン共和国在大阪・神戸総領事館マンガリレ総領事代行に対し、目録及び自転車修理キットを寄贈した。総領事代行から、寄贈に対する謝辞と事業の継続について要望があった。知事とアジア協会会長、府内市町村の職員が再生自転車を輸送車両に積み込み、出発。当日の様子は新聞各紙にも掲載された。

(4) 平成 20 年度サイクル・エイド支援会議の開催(2回)

日程:2008年8月21日

場所:大阪府庁内 会議室

出席者:8名(委員4名(代理出席を含)、顧問3名・事務局長1名)

内容:平成 20 年度事業計画、平成 20 年度事業予算について

日程:2009年3月25日

場所:大阪府庁内 会議室

出席者:8名(委員4名(代理出席を含む)、顧問3名・事務局長1名)

内容:平成 20 年度事業報告、決算見込み、現地状況報告、

平成 21 年度事業計画(案)及び予算(案)、

サイクル・エイド支援会議の組織拡充

(財)JKA による「競輪公益資金」の補助を受けて実施

(財)大阪府国際交流財団平成 20 年度 NPO 活動支援事業の助成を受けて実施

7. 災害復興支援事業

バングラデシュ・サイクロン「シドル」災害復興支援事業 BDP

2007年11月にバングラデシュ南西部の沿岸地区を襲ったサイクロン「シドル」の災害復興支援の一環として、被災者の生活改善のために、以下の活動を行った。

受益者数 合計のべ 4,000 世帯(22,500 人)

1. 深井戸建設: 7 基(2,000 世帯をカバー)
2. 野菜の種の配布: 2,500 世帯(4 パック/世帯)
3. 肥料: 2,500 世帯(2kg/世帯)
4. 倒木果樹の再生: 2,500 世帯(8 本/世帯)

(ボリシャル県の 22 カ村)

A. 国際協力・交流事業

バングラデシュ・サイクロン「シドル」災害復興支援事業 RWF

サイクロン「シドル」により、最も被害の大きかったバゲルハット県サランコラ郡において、被災者の生活改善及び収入改善を目的として以下の活動を行った。この事業においては、本会会員であり専門家の藤原建男氏、永井博記氏を派遣した。バングラデシュ側からは、本会が従来から洪水対策研究の一環として支援を行っているバングラデシュ工科大学の奨学生マスドゥール・ラーマン氏、ナジームウディン氏がボランティアとして、更に同大学から水と防災対策研究所のムンスール・ラーマン教授が加わり、日本とバングラデシュの専門家による合同チームが作られ、この事業を実施した。

被災者の収入向上事業

バングラデシュ政府からの認可を受け、バレスガー川河口の一部を防災用のバンダルで(河岸侵食を防ぐための防災対策として設置される竹による帯状構造物)囲み、土砂の侵食を防ぎ、その周辺に魚の養殖所を設置し、被災者を中心とした漁業組合を作り、養魚の育成・維持・管理・販売を管理し、収益向上を図った。

実施内容

バンダル設置: 111 箇所
養殖所 1ヶ(2ヶ所に区切る)
労務裨益 3,000名(当事業に携わる)

受益者数 8,550人(上記労務裨益者数を含む)

* 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム支援事業
(サランコラ郡ラエンダ・ユニオンの5集落)

ミャンマー・サイクロン「ナルギス」緊急支援事業

小川モモウ氏のボランティアグループ 及び MCC

2008年5月にミャンマー南部のエラワディ管区を中心に襲ったサイクロン「ナルギス」において、被災者の緊急支援の一環として、3度に分けて、食料・生活物資の配布を行った。当事業においては、サイクロンにおける政府の対策が非常に脆弱であったために、現地のカウンターパートだけではなく、本会の会員が有するミャンマーへのコネクションなどを使い、緊急支援事業が行われた。

2009年度も災害復興支援事業を継続する予定。

第一弾

事業名: 食料・生活物資配布事業
事業実施地: ヤンゴン管区サンチャウン県
受益者: 2,250世帯
配布物資: 米、家屋修繕の材料費

第二弾

事業名: 食料・生活物資配布事業
事業実施地: エラワディ管区ボガレー地区
受益者: 1,144世帯

配布物資: 米、小麦粉、衣料、

第三弾

事業名: 食料・生活物資配布
事業実施地: ヤンゴン管区タリン町タルヤゴンの小学校
受益者: 約260人(タルヤゴン寺内の小学校)
配布物資: 米、ノート、エンピツ

ミャンマー・サイクロン「ナルギス」緊急支援事業 MCC (日本米をミャンマーの被災者に贈る事業)

サイクロン被災地は、ミャンマーの米の産地であり、サイクロンが起こす高波による塩害により、農地が大打撃を受けた。被災者の救援に伴い、米の必要性が問われ、また米不足になるという懸念から、現地側との話し合いにより、米を日本から送ることとなった。幸南食糧(株)を筆頭に堺市役所、善光寺、寝屋川国際婦人クラブ、キンダーキッズインターナショナル、小川モモウ&グループ、JAFS有志の皆様から米・衣料の提供にご協力いただき、この事業を実施することが出来た。現地提携団体 MCC はこの非常事態に政府とかけあい、関税を無償にする手続きなどを行った。

* 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム支援事業

事業実施地: ヤンゴン管区ヤンゴン市ノトワシティ町
エラワディ管区ボガレー地区ノパンタナウ地区
受益者: 1,076世帯
配布物資: 日本米及び衣料

中国四川大地震緊急支援事業 CHAFS

2008年5月に中国四川省を中心に襲った大地震において、本会は、現地 CHAFS を通じて、以下の事業を行った。当事業においては、2009年度も継続実施する予定。

配布物資: 教育継続のための教材の配布
調査実施: 中国甘肅省天水市における被災地の被災地調査
(中国、四川省・甘肅省)

8. 研究開発支援事業

バングラデシュにおける水問題対策及び研究 RWF

バングラデシュ工科大学の水と洪水対策研究所において、バングラデシュの水問題に対して研究及び地域調査を行い、対策への取り組みを行っている、研究員生(主に大学院生)8名の奨学金及び研究調査費を支援。また、同大学教授のムンスール・ラーマン博士が行っている洪水対策研究においても研究費の支援を行った。

同奨学生の内、2名は、2007年11月～2009年5月のバングラデシュ・サイクロン「シドル」の緊急災害復興支援事業において、フィールド調査・調整に努めた。

9. アジア国際ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

本年度は5カ国で16回に亘って実施し、延べ175人が参加した。以下、実施日時順による。

1. 日中青少年友好交流年 甘肅省植林ワークキャンプ (中国)

期間: 2008年4月24日～5月1日

場所: 甘肅省鎮原県

参加者: 3名

内容: 植林作業、バイオガスパラント建設、交流

2. 第31回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期間: 2008年4月25日～5月4日

場所: カトマンズ県カブレ郡トクチャ村

参加者: 7名

内容: 小学校フェンス建設、プロジェクト視察、交流

3. イオン労連第9回カンボジアワーキングキャンプ (カンボジア)

期間: 2008年6月3日～6月7日

場所: タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラバインサラ村

参加者: 20名

内容: 井戸建設、交流

4. イオン労連第10回カンボジアワーキングキャンプ (カンボジア)

期間: 2008年6月13日～6月21日

場所: タケオ州トレアン郡ロネアム地区トメイ村

参加者: 22名

内容: 井戸建設、交流

5. 大阪新梅田シティライオンズクラブ植林ワークキャンプ (フィリピン)

期間: 2008年6月22日～6月25日

場所: カタンドゥアネス州カラムラン町イトイ村パロンバナネ島

参加者: 4名

内容: 植林

6. 第13回アジア国際夏期学校 (インド)

期間: 2008年7月21日～8月4日

場所: カルナータカ州ビジャプール、コスモニケタン

参加者: 6名

内容: 植林、風力発電、授業、運動会、交流

7. 第32回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期間: 2008年8月8日～8月17日

場所: カトマンズ県バクタプール郡スタール村 カブレ郡トクチャ村

参加者: 8名

内容: 植林、子どもとの文化交流会、バイオガスパラント設置及びプロジェクト視察

8. 第5回京都暁星高校ワークキャンプ (フィリピン)

期間: 2008年9月22日～9月29日

場所: パナイ島アンティーク州パンダン町

参加者: 19名

内容: 植林、交流

9. インド風力発電・石釜建設ワークキャンプ (インド)

期間: 2008年11月16日～11月26日

場所: カルナータカ州ビジャプール、コスモニケタン

参加者: 6名

内容: 風力発電及び石釜建設、視察、交流

10. イオン労連第11回カンボジアワーキングキャンプ (カンボジア)

期間: 2008年11月25日～11月29日

場所: タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区ソーチャン村

参加者: 20名

内容: 井戸建設、交流

11. 第33回ネパール国際ワークキャンプ (ネパール)

期間: 2008年12月23日～2009年1月2日

場所: ルンピニ県ノールバラシ郡ピトゥリ村

参加者: 7名

内容: 小学校図書室建設、バイオガス建設及びその他の農村開発プロジェクトの視察、子ども環境発表会参加、交流

12. 第10回パンダン国際交流キャンプ (フィリピン)

期間: 2008年12月27日～2009年1月2日

場所: パナイ島アンティーク州パンダン町

参加者: 10名

内容: 植林活動、JAPAN BOX(文化紹介)、交流

13. 松下電器産業半導体労働組合 カンボジア

「チック・アンド・トック計画」第7次派遣 (カンボジア)

期間: 2009年1月24日～1月29日

場所: タケオ州トレアン郡サンロン地区チュレイ村

参加者: 14名

内容: 井戸建設作業、プロジェクト視察、交流

14. 第6回NTT労働組合東海総支部

フィリピン・カタンドゥアネスワークキャンプ (フィリピン)

期間: 2009年1月25日～1月31日

場所: カタンドゥアネス島サンアンドレス町リクティン村

参加者: 21名

内容: 井戸・パイプライン建設、プロジェクト視察、交流

A. 国際協力・交流事業

15. 第2回(株)パスコ カンボジア・ワークキャンプ (カンボジア)

期間:2009年2月26日~3月3日

場所:タケオ州トリアン郡ロネアム地区プレイパエ村

参加者:3名

内容:井戸建設、プロジェクト視察、交流

16. 第3回フィリピン・パロンバナネス島国際ワークキャンプ (フィリピン)

期間:2009年3月5日~3月11日

場所:カタンドゥアネス島カラムラン町トイトイ村パロンバナネス島

参加者:5名

内容:環境に関するワークショップ・セミナー、植林、交流

10. アジア国際スタディーツアー

アジアにおける本会海外プロジェクト見学やアジアの現状を実際に足を運ぶことで実感することを通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。本年度は3カ国に4回実施し、述べ35名が参加した。

1. バングラデシュ スタディーツアー (バングラデシュ)

期間:2008年4月5日~4月12日

場所:バゲルハット県

参加者:3名

内容:災害復興プロジェクト視察、交流

2. 第9回パンダン国際親善交流ツアー (フィリピン)

期間:2008年10月2日~10月6日

場所:パナイ島アンティーク県パンダン町

参加者:11名

内容:日比友好飲料水パイプライン10周年記念式典、パレード、植林、交流

3. 第19回アジア国際ネットワークセミナー (ネパール)

期間:2008年10月19日~10月25日

場所:ネパール・カトマンズ、ノールパラシ、チトワン

参加者:6名

内容:アジア13ヶ国の本会ネットワークが集い、国際会議とネットワークの強化を目的としたセミナーを実施

4. 京都西南ロータリークラブ 寄贈井戸訪問ツアー (カンボジア)

期間:2009年3月17日~3月21日

場所:カンボジア・タケオ州の8カ村

参加者:15名

内容:寄贈井戸完成式典参加、植林、交流

11. プロジェクト視察

1. バングラデシュ

期間:2008年4月6日~4月17日

場所:バゲルハット県

視察者:永井博記

内容:災害復興プロジェクト監督・視察(緊急支援関係)

2. バングラデシュ

期間:2008年4月23日~5月7日

場所:バゲルハット県

視察者:横山浩平

内容:災害復興プロジェクト調整・視察(緊急支援関係)

3. フィリピン

期間:2008年4月22日~4月25日

場所:ヌエバエシハ州、マニラ

視察者:松井聡子、京セラ労組2名

内容:京セラ労組寄贈井戸視察、ASI生活改善プロジェクト視察

4. ネパール

期間:2008年4月26日~5月7日

場所:バグマティ県カブレ郡トゥクチャ村

バグマティ県バクタプール郡スダル村

バグマティ県ダーディン郡スノウラバザール村

バグマティ郡カトマンズ郡チュニケル村

視察者:熱田典子

内容:学校設備支援、井戸・バイオガスプロジェクト視察、アジア里親の会支援校との打ち合わせ

5. 中国

期間:2008年5月25日~5月29日

場所:北京・四川省

視察者:藤原建男、田中壽美子

内容:緊急支援事業実施のための調査・調整

6. フィリピン

期間:2008年5月25日~5月29日

場所:ミンダナオ島ダバオ・オリエンタル州ルボン市、マニラ市

視察者:村上公彦、松井聡子

内容:AFSダバオ新規発足、プロジェクト視察、ASIとネットワークについての会議

7. ミャンマー

期間:2008年5月28日~6月6日

場所:ヤンゴン管区

視察者:永井博記、横山浩平

内容:緊急支援事業実施のための調査・調整

A. 国際協力・交流事業

8. インド

期 間: 2008年6月9日～6月19日
場 所: マハラシュトラ州、カルナータカ州
視察者: 村上公彦、田中壽美子、富松英二
内 容: RUDYA視察・運営調整、コスモニケタン学園始業式参加・視察・運営調整

9. ネパール

期 間: 2008年6月25日～7月1日
場 所: ルンピニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村
ナラヤニ県チトワン郡ラトナナガール
バグマティ県バクタプール郡スダル村
バグマティ県カトマンズ郡チュニケル村
視察者: 熱田典子
内 容: 学校設備支援、井戸・バイオガスプロジェクト視察、アジア里親の会支援校との打ち合わせ

10. ネパール

期 間: 2008年6月27日～7月1日
場 所: バグマティ県バクタプール郡スダル村
視察者: 村上公彦
内 容: アジア国際ネットワークセミナー打ち合わせ及び下見

11. フィリピン

期 間: 2008年7月7日～7月11日
場 所: ネグロス島バゴ市、リサール州、マニラ
視察者: 村上公彦、松井聡子、田中恒夫
内 容: 有機農業プロジェクト視察、EM菌セミナー

12. 中国

期 間: 2008年7月25日～7月26日
場 所: 北京
視察者: 永井博記、横山浩平
内 容: 四川大地震 CHAFS 調査報告会参加

13. ネパール

期 間: 2008年8月8日～8月17日
場 所: バグマティ県バクタプール郡スダル村
バグマティ県カブレ郡トゥクチャ村
視察者: 熱田典子
内 容: 植林、バイオガスプロジェクト視察、普及及び環境に関するセミナー、井戸プロジェクト視察

14. ミャンマー

期 間: 2008年8月18日～8月26日
場 所: ヤンゴン管区、エラワディ管区
視察者: 永井博記
内 容: 日本米を贈る事業実施

15. 中国(香港)

期 間: 2008年9月6日～9月8日
場 所: 香港
視察者: 村上公彦
内 容: 会議出席

16. タイ

期 間: 2008年9月13日～9月16日
場 所: チェンマイ
視察者: 村上公彦
内 容: One Asia Community Fellowship 会議

17. カンボジア

期 間: 2008年9月19日～9月23日
場 所: タケオ州
視察者: 村上公彦、渡辺瑠璃子、暮部恵子、他2名
内 容: 寄贈井戸視察及び、取材

18. フィリピン

期 間: 2008年9月30日～10月1日
場 所: リサール州カルドナ
視察者: 松井聡子
内 容: プロジェクト視察

19. ネパール

期 間: 2008年10月16日～11月3日
場 所: ルンピニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村
ナラヤニ県チトワン郡ラトナナガール
バグマティ県バクタプール郡スダル村
バグマティ県カブレ郡トゥクチャ村
バグマティ県シンドゥパルチョーク郡チョータラ村
視察者: 吉田暢子理事(10/18～30)、熱田典子
内 容: バイオガスプロジェクト視察、普及及び環境に関するセミナー、井戸プロジェクトとチョータラ病院視察、植林地視察

20. ラオス

期 間: 2008年11月12日～11月17日
場 所: サヤブリ県
視察者: 横山浩平、京都洛中ロータリークラブ2名
内 容: 学校建設視察

21. カンボジア

期 間: 2008年12月9日～12月12日
場 所: タケオ州
視察者: 村上公彦、京都西南ロータリークラブ4名
内 容: 井戸建設視察

22. フィリピン

A. 国際協力・交流事業

期間:2008年12月16日～12月19日
場所:カタンドゥアネス州サンアンドレス町
視察者:村上公彦
内容:サイクルエイド贈呈式、井戸プロジェクト視察

23. フィリピン

期間:2009年1月23日～1月25日
場所:マニラ市、リサール州カルドナ
視察者:松井聡子、三吉理紗
内容:植林プロジェクト視察

24. ネパール

期間:2008年12月23日～2009年1月7日
場所:ルンビニ県ノールパラシ郡ビトゥリ村
ナラヤニ県チトワン郡
バグマティ県ダーディン郡スウラバザール村、
ダーディン ペシ
バグマティ郡カトマンズ地区チュニケル村
バグマティ郡カトマンズ地区シタパイラ村
視察者:熱田典子
内容:バイオガスプロジェクト視察、普及及び環境に関するセミナー、アジア里親の会支援校との打ち合わせ、学校支援

25. ネパール

期間:2009年1月23日～1月31日
場所:ルンビニ県ノールパラシ郡ビトゥリ村
バグマティ県バクタプール郡スダル村
視察者:熱田典子
内容:国際ボランティア貯金のバイオガスプラント現地視察、
バイオガスプロジェクト視察

26. インド

期間:2009年2月12日～2月20日
場所:タミールナドゥ州ディンディガル、ナマカル
視察者:村上公彦、小原純子
内容:SSHプロジェクト視察、TRDP訪問

27. インド

期間:2009年3月4日～3月14日
場所:ナガランド州コヒマ地区、デリー
視察者:柏木道子、ムツェゾ・テツェオ、巽亮太、横山浩平
内容:パイプライン事業視察・デリー「こども村」視察

28. ネパール

期間:2009年3月25日～4月3日
場所:ルンビニ県ノールパラシ郡ビトゥリ村
バグマティ県ダーディン郡サルヤンタール村
バグマティ県バクタプール郡スダル村
バグマティ郡カトマンズ地区シタパイラ村

視察者:熱田典子
内容:バイオガスプロジェクト視察、プロジェクト相談、
アジア里親の会支援校との打ち合わせ

12. 各国部会(地域NGO)活動助成

本会の国際ネットワークの各国部会(NGO)の活動を強化することは、本会の事業の柱の一つである。しかし、発展途上国ではNGOの自己資金調達が困難であり、本会の助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。

RUDYA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

HDSI(インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助した。

KAFS(カンボジア)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

TAFS(タイ)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA(スリランカ)

サルボダヤの組織の中で地域開発を実施している農村開発支部(CCBU)のプログラムを総合的に支援。村の中で様々なワークショップ、無償奉仕キャンプを行い、村の人たちの自立への自信を高めている。

13. AFS国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワークを通じて国際的に展開している。本会現地提携団体を中心となり、グリーンスカウト運動という名の下、各地で様々な活動が実施された。

GS Nepal(ネパール)

1. 農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカルGSづくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。また、12月28日に小

学校単位でのGS活動を行う3校の学生が集合し、環境活動の発表をおこなった。昨年に引き続き学校の美化活動、住居周辺の清掃活動が実施されるように行動目標を立てている。2年目をむかえ、子どもたちの意識が高まり、様々な方向より環境保全を実施する動きが見られる。今年は特に子ども個人の行動指針と夢を紙で作った葉に書き、その想いを大きな樹とした。

現在のローカルGS

- ・バクタプール郡スタル村GS
- ・ソエンブーGS
- ・ピトゥリ村GS
- ・チュニケル村GS

2. ピトゥリGSは、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居近くの道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校行う。
3. チュニケル村GSは、教師が中心となり学校での清掃活動を実施。又植林活動を生徒たちでおこなった。

フィリピン(AFS-Pandan)

過去2回に渡りパンダン町で行われた土と水と緑の学校。それぞれの参加者が積極的なボランティアメンバーとして、水源地の保全のための草刈り、苗木の育成などを行った。また、現地自治体もグリーンスカウトの活動に協力体制をとっている。

地元ギア小学校のPTAの女性たちは、苗木を育てることを目的として、ミミズの培養や落ち葉などを利用した腐葉土の開発を行った。またそのための落ち葉は、生徒が清掃活動を行って集めたものを利用している。

グリーンスカウトメンバーを組織し、植林などのボランティア活動などに積極的に参加している。

(パナイ島パンダン町)

KALIPI 財団(フィリピン)

1. 年間を通じて、環境に関する世界中の記事をAFSニューズレターとしてAFSメンバーに発信。また併せて、政策提言も行っている。
2. 3月29日のアースアワー(8時-9時)には、地方行政と学校に呼びかけを行い、温暖化ガスの排出を少しでも少なくするために、1時間の消灯を行った。
3. 地方行政や団体に対して、KALIPI財団が環境についてのコンサルタントの無料提供を行うことを呼びかけた。

(ヌエバエシハ州)

ASI(フィリピン)

EM菌セミナーをきっかけに、有機農法や湖の浄化について取り組んだ。また、学生20名のグリーンスカウトを組織し、2009年1月23日に国際グリーンスカウト活動紹介と土と水と緑の学校の紹介を行った。

(マニラ)

14. JAFS海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成をおこなう為の制度として2000年度より実施。2008年度は、2名の研修生が国内研修及びインド・ネパールで約4ヶ月間、フィリピンで約4ヶ月の海外研修を実施。以下のJAFS提携団体にてボランティア活動を行なった。インド・ネパール研修の高塚真実さんは、現在在学中の専門を活かし体育講師ボランティア活動、三吉理紗さんは現地の暮らしを理解すると同時に環境活動補助そして日本語講師などのボランティアを主な研修内容とした。

研修生:高塚真実(大学生)

研修先:インド(BSVIA コスモニケタン学園、ISSA メアリーモリアル学園、HDSI セイント ジョーンズ小学校)

ネパール(GS-Nepal マハンカル小学校、ナウリン小学校、スリーサンティ小学校、スリーピトゥリ小学校、スリーラーズラトナ小学校)

研修生:三吉理紗(社会人)

研修先:フィリピン(AFS-Pandan、AFS-Virac)



スリランカ 井戸建設

A. 国際協力・交流事業



インド HIV/AIDS 研修施設建設事業



サイクルエイド 自転車出発式



フィリピン 植林支援



ネパール 環境セミナー



ミャンマー サイクロン災害復興支援



海外ボランティア研修制度